



にしく市民活動支援センター
にしとも広場

人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

2016

8号



人と本が生み出す
出会いのはなし



みんなが読書を楽しむために

～本を伝えるボランティア～

本は、私たちに読書の楽しさや生きる上で必要な知恵や情報を与えてくれます。また、幅広い世代を超えて楽しめる数少ないツールでもあります。

今回は、本に関わるボランティアや、本を通して人と人がつながる地域の事例を取り上げました。

ぜひ、皆さんの活動のきっかけやヒントを見つけてみてください。

紹介記事へのご質問は、
にしとも広場まで
お問い合わせください。
(TEL: 045-620-6624)



地域の子育てサロンでおはなし会（水曜会）

子どもと一緒にワクワク、 おはなし会

おはなし会では、絵本の読み聞かせとともに、手遊びや歌などいろいろな遊びをまじえて行います。お母さんお父さんも参加し、子どもと一緒に歌ったり、体を動かしたりすると、童心にかえるような楽しさがあります。にぎやかな雰囲気だから、「静かにしなさい」なんて叱らないで、気軽に参加できるのも魅力です。絵本を読んでいる時間は、普段の生活から離れて、ゆったりした時間がながれています。

「おはなしボランティアぽっぽぽ」は、0才から参加できる読み聞かせグループとして10年ほど前に結成しまし

た。なつかしい童謡や、季節を大切にした絵本を取り入れています。

「Yom yom!（ヨムヨム）」は、現役子育てママで結成。子育ての悩みや喜びに共感し、親と子、それぞれの心に寄り添って本を選んでいきます。

「水曜会」は、70代以上の男性だけのグループです。読み聞かせの他、手づくりのトンボ、紙飛行機など、体を動かす遊びも行っています。

おはなし会は、地域の子育てサロンや、地域ケアプラザ、地区センターなどの公共施設でたくさん開かれています。一緒に楽しむ中で、子どもとのふれあい方や、日々の生活に役立つヒントが見つかるかも…おはなし会に足を運んでみてはいかがでしょうか。

布えほんだから できること

よこはま布えほんぐるーぷ

障がいのある子どもたちにも、絵本や遊具で楽しく遊んでもらいたいという思いから、読むだけでなく「さわれる」「はめたり、はずしたり」できるものを考え、布で絵本を作り始めました。ページごとに、ボタン・スナップ・面ファスナー・ひもなどを用いた仕掛けがあり、はさず、ひっぱる、結ぶなどの動作を、遊びを通して身につけることが出来ます。シンプルな動作だから、繰り返し遊べて、自分でやってみたいという自発性を引き出す



ことにもつながります。これまでの作品数はなんと150以上。すべて手作りです。

また、布を素材につかっているのにも理由があります。布の柔らかくあたたかな触り心地は、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめます。汚れても洗えるし、破れても繕える所も魅力です。こうした作品は、個人でも団体でも無料で2週間借りることが出来ます。子どもたちはもちろん、的あてなど大人も楽しめる人気です。「必要とするすべての人に」そんな願いを込めて、布えほんが作られています。

http://www.geocities.jp/yokohama_nunoehon/index.html

デイジー図書で、 広がる世界

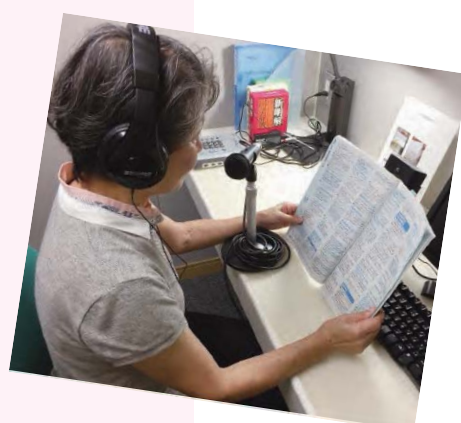
NPO法人デイジー横浜

季刊誌『横濱』に、「デイジー版」があるのをご存知でしょうか。デイジーとは、視覚に障がいがある方、印刷された文字を読むことが困難な方などのための、デジタル録音図書です。

近年では、学習障がい、知的障がい、精神障がいの方にとっても有効であることが国際的に広く認められてきています。主にCDで製作され、40時間ほどであれば1枚に全て収まります。Digital Accessible Information Systemの頭文字をとって「デイジー(DAISY)」といいます。

生活に必要な情報や、本を読む楽しみは、誰にも等しく必要なものですが、デイジー版がある出版物は少ないのが現状です。

『デイジー横浜』では、障がいの有無にかかわらず、誰もが情報にアクセスで



きる環境づくりのために、デイジー図書の製作を行っています。自治体の発行物のほか、個人からの依頼に応じて製作します。

依頼内容は、児童書、小説をはじめ、雑誌、会報誌、医療関連の本など様々です。大学受験用に、数学の参考書を依頼された時は、「やったことがないけど、できることがあるなら」と、依頼者と相談しながら、メンバーで分担して製作しました。録音・編集や校正など個人作業が多くても、図書をつくるためのひとつのチームのような雰囲気があります。

<http://dyokohama.minibird.jp/wp/>

一緒に活動する仲間を募集中です！



本を通じて 人と出会う、 つながる



本を借りに来た家族(ファミリー文庫)

自治会館での文庫活動

県営藤棚アパート自治会ファミリー文庫は、昭和44年11月、団地集会所の一角を利用してスタート。当時は、県立図書館のファミリー号という配本車が県内各地の団地を巡っており、こども巡回先の一つでした。現在の蔵書は、児童書、小説、実用書など約500冊。

通常日曜日10時30分から正午まで、自治会の図書委員が当番制で図書の貸出をしています。利用者は、子どもから大人

まで。団地外の人も登録すれば利用できる、とのこと。取材日には、団地の親子連れが本を借りに来ていました。図書委員の方は、この親子と顔見知りのようで、母親に「○○ちゃん、何年生になった?」と話しかけていました。

利用者の中には、本を借りずにブラリと文庫に立ち寄り、おしゃべりをして帰る人もいます。文庫活動は、本の貸し借りを通じて、人と人のつながりをつくり、育てる場になっているように感じました。

自宅を開放した文庫活動

バージニア・リー・バートン作の『せいめいのれきし』を読み上げているのは、元小学校教師の滝谷さん。今日は、ルピナス文庫が定期開催しているブックトークの日です。参加者は、子ども4名を含む21人。参加者全員が真剣な表情でブックトークに聴き入っています。

ルピナス文庫主宰者の松本さんは、15年前、2人のお子さんを育てている時に「絵本と出会い、育児の悩みから救われた」といいます。そして、4人目のお子さんが1歳になった8年前、ルピナス文



ブックトークの様子(ルピナス文庫)

庫の活動を始めた、とのこと。現在の蔵書は、絵本を含む児童書約1500冊。開館日は祝祭日を除く毎週火曜日。午前中はお子さん連れの母親が多く、午後は近所の小学生が通ってくるそうです。

本を借りに来るだけでなく、思春期の子どもを持つ母親が集まり、悩みごと相談の場となることもあるそうです。松本さんの願いは「本に興味のなかった親子が本と出会い、読書の素晴らしさを知ること」。夢の実現に向けて、ブックトーク以外にも、おはなし会や絵本の会を定期開催しています。

<http://lupinuspunkblog2.fc2.com/>



コンサートリーディングの様子(Cafeハートフルポート)

「コミュニティカフェでの 絵本イベント」

ここは、旭区希望が丘のCafeハートフル・ポート。素敵な音楽が流れる中、絵本の読み伝えが始まります。語り手は、コンサートリーディング「おはなしの風」主宰者の森川美代子さん。参加者は、すぐにBGMと絵本が織りなす物語の世界に引き込まれていきます。この日取り上げた本は、『月人石』『T-LEKEME!』など全7冊。参加者は、口々に「癒された」「心が爽やかになった」との感想を話していました。

森川さんは、「人は人生の中で絵本に3度出会う。最初は自分が子どもの時。次は自分が子どもの親になった時。最後は人生に迷った時。私自身が、絵本に出会ったことで、心癒され、自己承認へとつながりました」と言います。

読み伝えの合間には自己紹介タイムもあり、場を共有することで生まれる人と人のつながりを大切にしている森川さんの気持ち伝わってきました。

次に紹介するのは、「おとなのための絵本カフェ」。「旅立ち」や「出会い」など、毎回設定されたテーマから連想する絵本やお気に入りの絵本を持ち寄り、絵本に

まつわる想い出やエピソードなどを語り、聴きあう集まりです。絵本を持たずにぶらりと参加するのもOKとか。案内役の迫祐子さんは、「絵本の持つ豊かな絵や言葉の表現の素晴らしさや愉しさを共有すること」を目的に、誰でも気軽に参加できるように、「シンプル＆フラットな場づくり」を心がけているそうです。

2つの絵本イベントへ参加し、世代を超えて人を引き付ける絵本の魅力と、イベントの参加者同士が横につながり、人の輪が少しずつ広がる様子を知るよい機会となりました。

<http://www.heartful-port.jp/>

本で生まれる新たな コミュニケーション

文／市川紀子さん

(株式会社有隣堂・ビブリオバトル普及委員会)

好きな本を持ち寄り、気軽な交流を楽しむ取組が増えていきます。ブック交換(注)、ビブリオバトルなどネーミングだけでも興味をそそられます。これらのイベントに触れたことはありますか？その中のひとつ、ビブリオバトルをご紹介します。ビブリオバトルはおすめの本を5分間で紹介しディスカッションの

後、全員の投票で「一番読みたい本」チャップ本」を決めるゲームです。

(ビブリオバトル普及委員会)
<http://www.bibliobattle.jp/>

広がる市内の取組

ある小学校ではクラス担任の先生が児童に向け『るるぶ』で食いしん坊ぶりを発揮、『ドラえもん』で熱い友情を語るなど個性の光る紹介に子どもたちが沢山の質問を浴びせ大賑わい。また2014年横浜市中心図書館で開催されたシンポジウムではビブリオバトルが作る「コミュニティ」について活発なディスカッション

が行われるなど、各地で広がっています。

人気のワケ

ビブリオバトルには「本を通して人を知る 人を通して本を知る」というキャッチコピーがあります。本を紹介することでその人となりが垣間見え、その生きた言葉を通して本への理解が深まり一層本を読みたい気にさせる魅力があります。多様な人の集いの中で出逢う意外な1冊、本をきっかけに気軽に語りあふことのできる仲間との出逢い、そして「チャップ本」に選ばれる時のドキドキ感。一度で様々な魅力を楽しむことがで

きます。

今後の展望

このような読書イベントは、学校や図書館での取組と並行し、地域での趣味やサークル活動としての発展が望まれます。多様な世代や価値観を持つ人々と本を通して緩やかで楽しく過ごす遊びの場があることは、心にゆとりを与え豊かな地域文化を育む土壌となるでしょう。

(注)ブック交換：自己紹介を兼ねた本の紹介をした後に本を交換するブックトークイベント。
<http://bukubukunet/>



④ 本とお茶 ときどき手紙 草徑庵

マイクロ・ライブラリーが増殖中 1つの本棚が図書館になる?!

1つの本棚をみんなで共有して
いこうという、「マイクロ・ライ
ブラリー」の考え方が全国的に広
がっています。市内で始まっている
事例をご紹介します。皆さんも
活動に取り入れてみませんか？

「まちライブラリー」はマイクロ・ラ
イブラリーのひとつ。六本木ヒルズの産
学教育・研究連携拠点「アカデミーヒル
ズ」の開設等に関わった磯井純充さんが
始めた本で人と人がつながる仕組みで
す。まず、本棚を用意します。そして、「読
んでほしい本」をそれぞれが持ち寄り、
本棚に寄贈（植本）する植本祭を実施し、

少しずつ本棚と人のつながりを成長させ
ていくというものです。本には感概力
ードがついていて、寄贈した人とその本を
借りた人の思いもプラスされています。

<http://machi-library.org/>

すでに全国には、約400箇所の「ま
ちライブラリー」があり、横浜でも始まっ
ています。

ふらっとステーション・とつか

戸塚区にあるコミュニティカフェ「ふ
らっとステーション・とつか」の中にあ
る「まちライブラリー」では、月に1度
植本祭を行っています。毎回1、2名の
スピーカーがお勧めの本を紹介します。
当日ふらっと来た人でも、誰でも参加す
ることができます。毎回のように参加す
る方もいて、見知らぬ人同士だったのに、
たまたま同じタイミングで同じ本を読ん
でいた！とか、初めて知る詩人の詩と出
会ったとか。視力の低下で読書がしづら
くなった方も「話を聞けるだけで楽しい」
と参加されています。（写真①）

<http://furatto-totsuka.com/wp/>



② ミズキー文庫



③ はたらく車消防文庫



⑤ オリジナルの蔵書票

ミズキ文庫

港北区役所内には、2つの「まちライブラリー」があります。1つは4階の港北区民活動支援センターにある「ミズキ文庫」。地域の人から寄贈本を受け入れるだけでなく、「まちの先生」（仕事や趣味で培った知識や経験を活かしたボランティア制度）の体験講座と植本祭をセットに行っています。例えば、英会話が得意な「先生」の英会話講座では、参加費の代わりに英語に関するお勧めの本を寄贈してもらいます。「先生」との出会いの他に、本を通して参加した人同士の交流や情報交換の機会にもなります。寄贈本は「まちの先生」が手作りの木製の本棚に配架され、ふらっと立ち寄った人たちが手に取っています。（写真②）

はたらく車消防文庫

もう1つは、2階にある港北消防署の入口にある「はたらく車消防文庫」。署員お手製のミニ消防車の脇に設置されています。消防車などが出てくる絵本が多く、署員が持ち寄った本が入っていて、ミニ消防車と合わせて、子どもを連れて来ている方々に人気。親子で運転席に座ってお母さんが絵本を読み聞かせる姿や、そこで出会った子どもたちが一緒に本を読む姿も見られ、消防ファン獲得にも一役買っています。（写真③）



⑥ BOOKPOST

本とお茶 ときどき手紙 草徑庵

磯子区にあるのは、個人宅を改装してつくった「本とお茶 ときどき手紙 草徑庵」というユニークな名前のカフェ。お茶を飲みながらゆったりと本を楽しむのがコンセプトで、本棚には、ロマン・ランの全集や哲学書、美術書など、店主こだわりの本が並んでいます。元々、本の貸し出しをしていたことがきっかけで、「まちライブラリー」に参加することになりました。2か月に1度「本の会」を開催し、毎回テーマに合った本をそれぞれが持ち寄り、小節だけ朗読し、紹介し合っています。（写真④）

※寄贈（植本祭）は行っていない。

<http://soukeian.blog.fc2.com/>

どこでも図書館

MOSOプロジェクト

青葉区では別のマイクロ・ライブラリーの仕組みも動き出しています。

2014年度の「コラボレーションフォーラム つながろう 本×人×場」終了後、懇談会の参加者の声から始まったこのプロジェクト。参加者だった工務店がBOOKPOST（小箱型の本棚）

を試作し、それをもとにメンバーみんながワークショップで5つ作成。地元の郵便局やお寺、市民が一軒家をコミュニティハウスとして運営する「まちの家族」などに設置して、誰でも自由に貸し借りができる仕組みです。今年は、消しゴムハンコ作家さんによる、オリジナルの蔵書票作りワークショップも開催。「区内の郵便局全部に置きたい！」「まちの家族」のご近所に沢山のポストを作りたい！」「増えたら、オーナーたちを集めて『ポストサミット』を開きたい！」などなどMOSOはどんどん膨らみ続けています。（写真⑤、⑥）

<https://goo.gl/Y9sm1S>



① 植本祭の様子

にしとも広場の使い方

生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」募集中!



「西区街の名人・達人」は、仕事や趣味で培ったご自身の経験・知識・技術を地域のために活かすための登録制度です。

仲間とゴスペルをやっているの、誰かに聞いてもらいたい!昔、紙飛行機を折るのが得意だったので、その技を伝授したい!仕事を活かして、ホームページ作成します!得意なイラストで、チラシ作りでお手伝いができるかも。な

どなど…

何かできるかも!という方は、当センターまでお問い合わせ(TEL: 045-620-6624)ください。皆さんが持つスキルで、地域がもっと輝けるかも!?

生涯学習ボランティアを活用したい団体・グループも募集中。

※ P2 に掲載した「おはなしボランティア ぽっぽぽ」も登録団体です。

表紙のこと

今回の表紙は、左から「宮谷小学校市民図書室」と「おもちゃ文庫きんぱす」。

宮谷小学校の学校図書館の一部を活用した市民図書室は、地域の人たちが運営しています。開放時間は、土日の10時30分から2時間。地域の人なら誰でも利用できます。大人向けの本も多く、本好きのママと子どもが一緒に来て本を楽しむ姿を、スタッフが見守っています。

「おもちゃ文庫きんぱす」は、「生活創造空間にし」の5階にある小さい子どもたちにも開放された遊びの場。木曜日の11時45分には南浅間保育園の先生が絵本を持ってやってきます。一緒に絵本を読んだり、育児相談にものつてくれ、気に入った絵本は、借りることもできます。(・ひ・)

掲載内容の訂正とお詫び

『にしとも広場第7号』の掲載内容に誤りがありました。皆さまにお詫びして、下記の通り訂正いたします。

【訂正箇所】

p7 右上「Cafe アニミ」

営業時間：火～土 (11:00～15:30)

“にしとも広場”ってどんなところ?

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。

「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。ぜひ一度お立ち寄りください。



にしく市民活動支援センター
にしとも広場

(管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま)

TEL/FAX 045-620-6624

Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/>

住所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階

開館時間 9:00～17:00

休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29～1/3)

アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分



情報紙「にしとも広場」は、
西区内の郵便局、地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設に配架しています。

発行：にしく市民活動支援センター“にしとも広場”
発行日：2016年11月

承認西区第21号